



研究冊子刊行、トークイベント

「前夜／前線 — クリティカル・アーカイヴ vol.2 」

このたび、ユミコチバアソシエイツでは、20世紀絵画を独自の視点から論じる研究冊子の刊行（2014年春刊行予定）ならびに一年を通して行うトークイベントを開催いたします。

昨年刊行された高松次郎研究冊子『Jiro Takamatsu Critical Archive』は好評を博し、執筆者4名によるトークイベントも盛況のうちに終了しました。本企画は、その成果を踏まえ開催されるものです。シリーズ2回目となる今回は、「戦争と絵画」をテーマに、石川卓磨、河本真理、沢山遼、弘中智子の各氏を迎え、美術家、美術史家、批評家、学芸員として活動されている4者のそれぞれの見解を持ち寄り、日本と西洋の20世紀絵画の再検討を行います。

トークイベントでは、企画者である石川卓磨、沢山遼の両氏が毎回ゲストを招き、対象となる画家やその作品をめぐる対談します。香月泰男、浜田知明、福沢一郎など、主として1930年代～50年代に第二次大戦を通して新たな絵画的諸問題に直面した画家たちの実践が取り上げられる予定です。ぜひ、ご注目ください。

■開催にあたって

第二次大戦以降、日本やイギリスをはじめとする国で、多くの戦争画が描かれた。「戦争画」の定義を広義に解釈すれば、いくつかの前衛主義——たとえば未来派やフランツ・マルクの壮絶な絵画経験も、その範疇に含めることができるだろう。戦争という局面は、絵画を外的状況との絶え間ない緊張関係へと接続した。おおよそ、戦争経験による主体の再編を考慮することなしに、20世紀絵画を語ることは不可能である。しかし、私たちが行きたいのは、あらゆる20世紀絵画に戦争の陰影を読み込むような、反映論的な議論ではない。20世紀の絵画実践は、外部との緊張関係を示す実直なドキュメントであったのではないからだ。むしろ、そのような状況において、画家自身がいかに、外部によって再編された制作主体を分析したのか、という視点こそが重要である。それは、さまざまな時差や抽象性の濃度をともなって、特定の様式論的枠組みには還元不可能な、意味論的かつ形式的な諸コードの発明と絵画組成の変容をもたらしたはずだ。それにともなって、絵画の内在的展開や様式論的推移といった神話もまた、解体されなければならないだろう。

外部状況は、いかに制作主体の存在論的次元を再編し、絵画はそのような状況をいかに目撃したのか。戦争という、人間を「剥き出しの生」へと差し向ける例外状態は、絵画という一個のマテリアルの物理的な生成過程にいかに作用するのか。あるいは、図像の可読性のレヴェルにかかわらず、絵画の政治的・力学的・実践的な諸問題を方法論的に読解可能なものにする、いかなる批評があり得るのか。私たちは、そのような課題を通して、新たな絵画理論の構築を目指したいと思う。具体的には、浜田知明、香月泰男、福沢一郎ら、主として1930年代～50年代に、そのような絵画的諸問題に直面した画家たちの実践が、議論の俎上にのぼることになる。

2013.5月 沢山遼



■研究冊子

「前夜／前線—クリティカル・アーカイブ vol.2」として、各執筆者による研究冊子を刊行いたします。2014年春の刊行予定です。

執筆者：石川卓磨（作家、美術批評）
河本真理（美術史家・広島大学大学院准教授）
沢山遼（美術批評）
弘中智子（板橋区立美術館学芸員）

■トークイベント

Session 1:「香月泰男をめぐって」

蔵屋美香（東京国立近代美術館美術課長）× 石川卓磨 × 沢山遼

7月20日（土） 17:30-19:30、事前予約制、参加費¥500（レジュメ付き）

【お申し込み方法】

件名「クリティカルアーカイブ vol.1」、お名前、ご住所、電話番号をご明記のうえ、event@ycassociates.co.jp まで、メールにてお申し込みください。

- ・定員（25名）に達しましたら、受付を終了いたします。
- ・ギャラリーからの返信メールが届かない場合は、営業時間内にお問合せください。

※Session.2以降のスケジュールが決まり次第、随時ご案内差し上げます。

■プロフィール

石川 卓磨（いしかわ たくま）

1979年生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。作家、美術批評。

主な展覧会に「世界と孤独 Vol.2 石川卓磨展」（2012年、日本橋タカシマヤ6階美術画廊X）、など。主な評論に「クリストファー・ウィリアムスのリング」（『所沢ビエンナーレ「引込線」2011』）、「折り返される場所 “アメリカ抽象絵画の巨匠バーネット・ニューマン”展」（『美術手帖』2010年11月号）など。

沢山 遼（さわやま りょう）

1982年生まれ。武蔵野美術大学大学院造形研究科修了。美術批評。

主な論考に「ジャクソン・ポロック—隣接性の原理」（『ART TRACE PRESS 01』2012年、ART TRACE）、「盲目的遮蔽空間—先キュビズムと《アヴィニヨンの娘たち》」（『ART CRITIQUE n.02』2012年、constellation books）「繫辞なき反復—高松次郎の非-命題」（『Jiro Takamatsu Critical Archive 高松次郎論集 vol.1』2012年、ユミコチバアソシエイツ）など。

■vol.1「香月泰男をめぐって」 トークイベント・ゲスト プロフィール

蔵屋 美香（くらや みか）

千葉大学大学院修了。東京国立近代美術館美術課長。

主な企画に、「ビデオを待ちながら—映像、60年代から今日へ」（2009年、東京国立近代美術館、三輪健仁と共同キュレーション）、「寝るひと・立つひと・もたれるひと」（2009年、同）、「いみあげなしみ」（2010年、同）、「路上」（2011年、同）、「めぐり絵画—日本のヌード 1880-1945」（2011-12年、同）。主な論考に「麗子はどこにいる?—岸田劉生 1914-1918の肖像画」（『東京国立近代美術館 研究紀要』第14号、2010年）。

「第55回ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館（アーティスト：田中功起、2013）」キュレーター。

※Session.2以降の出席者および執筆者のプロフィールは、都度、ご案内差し上げます。

【本件に関するお問合せ】

ぜひ御紹介くださいますよう宜しくお願い申し上げます。尚、御質問は下記までご連絡下さい。

ユミコチバアソシエイツ 担当：千葉 広報担当：福田

〒160-0023 東京都新宿区西新宿 4-32-6 パークグレース新宿#316 Tel：03-6276-6731

e-mail：info@ycassociates.co.jp website：www.ycassociates.co.jp

営業時間：12:00-19:00 定休日：日・月・祝日